

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Switch		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 10日	～	R8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 110名	(回答者数)	35名
○従業者評価実施期間	R7年 12月 10日	～	R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名	(回答者数)	4名
○訪問先施設評価実施期間	R7年 12月 10日	～	R8年 2月 10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 83名	(回答者数)	45名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所の支援に満足いただけているかの質問に対して、保護者評価(94%)、訪問施設評価(89%)が「はい」の回答と高評価をいただいている。	子どもの支援の経験豊富なスタッフを訪問支援員としている。 また、子ども中心を基本とするが、訪問先や家庭でも発達支援を行うための情報提供や、訪問先の状況を理解した上での支援を訪問先と共同で考えるというスタンスをスタッフ間で共有している。 加えて、質の向上のために、定期的に研修会への参加や情報共有する場を設けている。	今の評価に満足せず、日々研鑽することと、訪問先への説明や具体的な支援の提供ができるように丁寧に対応を行なっていく。 継続して研修の実施と定期的な情報共有の実施。
2	作業療法士、言語聴覚士と複数の職種がいることで、さまざまな視点で対応することができる。	Switch会議でケースの情報共有を行い、困難ケース等に関して話し合うようにしている。 社内研修で年に1回、学会形式の発表会を行い研鑽している。 外部研修にも定期的に参加して、発達支援に必要なスキルを研修している。	継続して定期的な情報共有の実施や研修の実施、外部研修への参加を行っていく。
3	訪問施設評価で、「訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすく、取り入れやすいものか」という質問で、91%で「はい」の回答。続いて、「質問に対して、適時・適切に回答しているか」という質問で、96%と訪問支援の実績で高評価をいただいている。	子どもの特性や発達に対する知識を理解し、かつ訪問先の文化や環境を理解した上で、できるだけ具体的な支援が行えるように訪問先と話し合いながら訪問を実施している。	継続して研修の実施と定期的な情報共有の実施。 できる限り、訪問先とコミュニケーションが取れる環境づくりを行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への説明等で、「家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。」という項目や非常時の対応、環境のところで、「教具が揃っているか」という項目で「わからない」と答えた方が多かった。	訪問が中心なため、ご家族向けの研修等は行っていませんが、個別的に研修の情報が必要な方にはご案内をさせていただいていました。全体でのアナウンスができていないので、今後の課題としたいと思います。また、教具も利用者への発信はできていなかったため、今後発信ができるように準備していきたいと思っています。	SNS等を活用して情報発信できるように努めてまいりたいと思います。
2	自立支援協議会等への参加など、地域資源との繋がりが希薄。 保育所等訪問支援の啓発。	現場中心で、なかなか地域や周囲の環境に目を向けることができていなかった。 現在、保育所等訪問支援の事業所が増えてきている一方で、他事業所で不適切な訪問があり、訪問先の受け入れの制限が出てきているところもある。	自立支援協議会等への参加。 地域資源への関わりを増やすと同時に保育所等訪問支援の啓発の実施。
3	ほとんどの訪問先で高評価をいただいているのですが、中には「何をしにきているかわからない」というご意見もいただいています。	訪問での説明不足やまだ訪問先との関係性が築けていない一面も見受けられる。	訪問先の管理者を含めて、関係性を築けるようにコミュニケーションを図っていく。 また、必要とされる事業所となれるように、実績を積んでいきたいと思っています。